

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-135	A-310	24-104	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Alcohol, Cannabis, and nicotine use during early pregnancy and infant hearing loss 妊娠初期のアルコール、大麻、ニコチンの使用と乳児の難聴			
執筆者			
Young-Wolff KC, Oberman N, Alexeeff SE, Croen LA, Steuerle KR, Ansley D, Castellanos C, Avalos LA.			
掲載誌			
Prev Med. 2025 Mar;192:108242. doi: 10.1016/j.ypmed.2025.108242.			
キーワード			PMID
アルコール、大麻、難聴、マリファナ、ニコチン、妊娠			39938724
要 旨			
<p>背景: 母親の出生前のアルコール、大麻、またはニコチンの使用が、生後 6 か月間の児の難聴の診断と関連しているかどうかを検討する。</p> <p>方法: 北カリフォルニアの Kaiser Permanente において、妊娠初期 (妊娠 8~10 週) にアルコール、大麻、またはニコチンの摂取の有無をスクリーニングした妊婦 (N = 233,902) から 2011 年から 2023 年の間に生まれた乳児 (N = 297,147) を対象に、集団ベースの遡及的出生コホート研究を実施した。出生前ケア開始時 (妊娠 8~10 週) に、妊娠以来のアルコール、大麻、またはニコチン摂取についてスクリーニングした。出生児の難聴は、ICD コードに基づく乳児の電子健康記録において 1 つ以上の難聴診断がある場合と定義した。2 値データ用の修正ポアソン回帰モデルを用いて、共変量を調整した出生前物質 (アルコール、大麻、ニコチン) ごとの乳児難聴のリスク比 (RR) を推定した。</p> <p>結果: 対象者の人種は、アジア系/太平洋諸島系が 23.9 %、黒人が 5.3 %、ヒスパニック系が 26.1 %、非ヒスパニック系白人が 37.7 %で、平均 (SD) 年齢は 32 (5.4) 歳でした。妊娠初期のアルコール使用が 9.9 %、大麻使用が 5.6 %、ニコチン使用が 3.9 %であった。生後 6 か月以内に難聴と診断された乳児は 0.2 %でした。多変量調整モデルでは、出生前のアルコール使用 (調整相対リスク: 1.37、95 %CI: 1.05-1.79) は乳児の難聴リスクの上昇と関連していたが、出生前の大麻またはニコチン使用は関連がみられなかった。</p> <p>結論: 妊娠初期の母親のアルコール摂取は、生後 6 か月以内に子供が難聴と診断されるリスクの増加と関連していた。</p>			